

会 議 等 報 告 書

標 題	第 1 回 地域生活支援拠点等整備進化プロジェクト会議			
日 時	令和 6 年 3 月 1 9 日（火）13 時 0 0 分～15 時 0 0 分			
場 所	茅ヶ崎市役所分庁舎 5 階 F 会議室			
出席者	■ 茅ヶ崎市障害者団体連絡会	茅ヶ崎寒川地区自閉症児・者親の会	上杉 桂子	
	■ 茅ヶ崎市障害者施設連絡会	社会福祉法人 翔の会	佐藤 伸	
	■ 茅ヶ崎市・寒川町居宅介護事業所連絡会	ヘルパーステーション結	小野田 潤	
	■ 茅ヶ崎市地域作業所連絡会	みらまーる	羽根 由起江	
	■ 茅ヶ崎市・寒川町ホーム連絡会	あっとほーむ小和田	棚橋 利恵	
	■ 相談支援事業所連絡会	相談支援センターつみき	譲原 充司	
	■ 相談支援事業所連絡会	地域生活支援センター元町の家	竹内 智洋	
	■ 相談支援事業所連絡会	障害者生活支援センター	田中 有希子	
	■ 相談支援事業所連絡会	生活相談室 とれいん	加藤 育子	
	■ 相談支援事業所連絡会	ひざしの丘	柴田 勝一	
	■ 茅ヶ崎市保健所	保健予防課	深澤 雄司	
	■ （事務局）ちがさき基幹相談支援センターナル		瀬川 直人	
	■ （事務局）ちがさき基幹相談支援センターナル		鐘ヶ江 麻里子	
	■ （事務局）茅ヶ崎市福祉部障がい福祉課	課長補佐	大畑 純子	
	■ （事務局）茅ヶ崎市福祉部障がい福祉課	課長補佐	大八木 元	
	■ （事務局）茅ヶ崎市福祉部障がい福祉課	主任	小林 彩美	
	■ （事務局）茅ヶ崎市福祉部障がい福祉課	主任	小清水 茜	
	■ （事務局）茅ヶ崎市福祉部障がい福祉課	主事	鈴木 健太	
	■ （事務局）茅ヶ崎市福祉部障がい福祉課	副主査	鈴木 敦之	
司会：茅ヶ崎市福祉部障がい福祉課 鈴木（健）主事 書記：障がい福祉課 鈴木				
・出席者各自より、自己紹介。				
1 地域生活支援拠点等整備について				
・国が想定する地域生活支援拠点等整備について、茅ヶ崎市の現状について説明。				
・整備の類型として、多機能拠点整備型と面的整備型があるが、茅ヶ崎市では、面的整備型を採用している。				
・相談：委託相談支援事業所4か所、基幹相談支援センターの設置。				
・緊急時：安心生活支援事業の実施。				
・体験の機会の場：放課後等デイサービス事業所を拠点に体験的宿泊機能を確保。				
・専門的人材の確保・育成：発達障がい専門相談員による相談支援事業所への巡回相談、事例検討、研修機会の確保。				
・地域の体制づくり：茅ヶ崎市自立支援協議会を中心に関係機関のネットワークを構築。				
2 地域生活支援拠点等整備進化プロジェクトの概要について				
・地域生活支援拠点等整備事業を運用、実行するにあたって、確実に実行できる体制や枠組みが必要。				
・ガイドラインに沿って確実に実行出来る体制と維持できる体制を作っていく必要がある。				
・「えぼプロ」について説明。現行の地域生活支援拠点等整備事業進化プロジェクトの俗称として「えぼプロ」として今後運用していきたい。				
3 茅ヶ崎市地域生活支援拠点等構築ガイドライン(案)について				
・協議の場の設置として自立支援協議会のプロジェクトとして位置づけ。				
・相談機能について、相談フローの説明。				
・緊急時の受入れ・対応機能「安心生活支援事業」				
・体験の機会の場「安心生活支援事業の体験機会」				
・事業所の登録について、5つの機能のいずれかを実施していただく事業所に登録をしてもらうことで地域生活支援拠点等整備事業の指定事業者として位置付けることが出来る。				

4 意見交換

【各委員より質問】

- ① 体験の場の登録について、児童のみになっているが間違いないか？

回答：現状、登録されているところが児童の事業所のみ。

- ② 宿泊と体験は緊急時の宿泊を前提とした体験なのか？

回答：宿泊と体験は別物として位置づけている。今のところ、緊急時の宿泊を目的とした体験としていない。

- ③ 模擬演習は宿泊を想定したものか？

回答：模擬演習は、宿泊を想定している。

- ④ 令和5年度の拡大とは？受け入れ先の拡大とあるが具体的にどこを拡大したのか？

回答：ふわふわ茅ヶ崎(GH)とあいむ湘南(一室を活用)を追加している。

- ⑤ 安心生活支援事業は利用者の事前登録が必要となっているが、登録しないと利用できないのか？

回答：事前登録が望ましいと考えているが、緊急時はその限りではない。

- ⑥ 周知の部分でまだされていないところが多いのではないか？

回答：周知については課題が多い。代表者会議では周知していたが、広がっていなかった。

- ⑦ ホームページには情報を上げていないのか？

回答：確実な体制が整っていない中で、ホームページ踏まえ周知が十分に出来ていなかった。

- ⑧ 今回追加した事業所で緊急時の受入れが対応できるのか？

事業所選定した根拠などはあるのか？具体的なシミュレーションをした方が良いのでは？

回答：登録希望事業所を募ったところ手上げがあったため、登録している。

- ⑨ 受け入れ側のスキルに合わせ体制を検討していただきたい。

回答：今後ケースに合わせた対応できるような体制を検討しつつ、各事業所に対して受入れのスキームについて説明できる体制を構築していきたいと考えている。

- ⑩ マザー湘南の体験宿泊の現場を見学した。いつも以上の体制を作っていた。医療ケアが必要な方について茅ヶ崎新北陵病院の医療型短期入所など活用できないのか？

回答：茅ヶ崎新北陵病院について以前協力を依頼した経緯はある。現段階では登録には至っていない。

- ⑪ 本プロジェクトのゴールについて、ガイドラインを完成させることが目的なのか？

回答：ガイドラインを完成させることが目的ではなく、確実に実行できる体制、維持できる体制を完成させたい。
可能であれば、体制を維持するための運用方法や定期的な模擬演習(ロールプレイ)など実効性を維持できるような体制まで整えていきたい。

- ⑫ 「くらしの基盤強化部会」で重なるテーマで協議している。部会の中で出た課題について連動できるのか。

回答：部会の中で出た共通する課題については、PJの中で共有してもらうことが有効と考えている。

- ⑬ 今年度、モデルケースとして医療的ケアを持つ行動支援が必要な方の対応について、慣れた支援者の関わりが出来るような体制が作れるようにしていった方が良く考えている。

回答：安心生活支援業の内容については別の機会を設け今後協議を進めていきたいと思う。

- ⑭ 緊急時の定義は、災害は含むのか？

回答：災害は含まない。

- ⑮ 地域包括支援センターとの連携については今後想定していくものなのか？

回答：相談機能や地域づくりなど検討する中で地域包括支援センターとも連携を図っていきたい。

- ⑯ 体験機能について GH が受け入れていくのか。

回答：対象となる方については、制度につながっていない方が体験できる場を提供することが想定されている。

【意見等】

- ① 安心生活支援事業の利用頻度はどのくらいあるのか？ケースが少ないのであれば、多めの予算をつけ、協力していただける事業所が増えて欲しいと考える。実効性の高い、事業になることを望む。

- ② 人材確保の部分で、発達障がい専門相談員から巡回相談を受けた相談支援専門員の力を活用した支援者支援を検討していく事もいいのではないかと考える。放課後等デイサービスや GH などの支援者を支援できるような仕組み作りを検討してくとよいと考える。

- ③ 相談機能について日頃の相談支援体制の中で対応が必要な方があった場合、どこも関わっていなかった場合の棲み分けなど検討できるとよい。

- ④ 事前登録制を活用するならば、事前に関わりが持てるような体制も検討していきたい。

- ⑤ 地域の体制づくりのなかで、仕組み作りも大切だが、仕組みだけではなくふらっとよれるような場所やよりみち

などサロンのな、タウンミーティング的なものが必要。

- ⑥ それぞれの機能をピックアップして協議していくことが重要。介護保険の考え方の中に小規模多機能型支援がある。地域生活支援拠点等整備はその障がい者版であると考えている。面的整備だけではなかなか進まないことも多いと思う。
全国的には89.7%が、面的整備になっている。利用者の情報把握が難しい事が多い。くらしの基盤強化部会でも同様の課題は出てきている。
- ⑦ 重度の方に焦点が当たることが多いが、引きこもりや社会とつながりが薄い人たちも、繋がる機能を検討していく必要がある。地域の作業所など現場の支援者がどのようにつながっていくのが良いのか今後も検討していった欲しい。
- ⑧ サザンポのような場があると良い。
- ⑨ 意思決定支援を助長していく中では、相談という枠ではない中でさらっと話せるような場所があるといい。
- ⑩ 施設連絡会としては、施設に通っている方はケースが見えていることが多い。人材がいかに緊急の時に協力出来るのかなど検討していく必要だと考えている。施設資源を活用して支えられるようにしていきたい。制度を利用している方よりも出来ていない方たちに対して支えられるような地域づくりをしていく必要がある。
- ⑪ 単発で終わりではなく、継続できるような仕組み体制づくりが必要。
- ⑫ ケアマネジャーも他分野との連携や連動が必要だという概念が盛り込まれてきた。今後共生型サービスについても協議できると良いのではないかな？障がい分野だけでなく高齢分野も含めて今後検討していければいいと考える。

5 次回プロジェクトについて

- ・2か月に1回を想定。年6回を予定。
- ・4月25日に自立支援協議会の全体会を開催予定。
- ・次回のプロジェクトでは地域生活支援拠点等整備事業についての勉強会を予定している。
- ・先進事例などを説明してもらえるようなところから説明を受けることも視野に検討していく。
- ・多機能整備型の体制をとっている？横浜市の体制を聴ける機会があっても良いのではないかな？
- ・先進事例の市町村は？八王子市や、秦野市は先進的な取組だと聞いている。
- ・上越市も先進的な活動をしている。
- ・又村あおいさんに制度設計のことを講義していただくこともいいのではないかな。

6 その他

- ・茅ヶ崎寒川地区自閉症児・者親の会より情報提供
4/2は世界自閉症啓発デー。ペDESTリアンデッキでチラシ配りをする。
ALL神奈川でイギリスの自閉症協会をお招きして「英国から学ぶこと」2025が開催される。
7月 自閉症療育者のためのトレーニングセミナー
4月7日 オンライン研修会
- ・相談支援事業所連絡会事務局より
プロジェクトの参加メンバーについて、4委託から1事業所ずつの輪番制で参加する形で参加する。
- ・障がい福祉課より
4月より、医療的ケア児者に対する相談窓口を設置する予定。